

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 商業販売統計(2008年7月)
～引き続き低調に推移～

発表日2008年9月29日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL : 03-5221-4528

(単位: %)

		商業販売額		卸売業		小売業		大型小売店			コンビニ販売額		
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	百貨店		スーパー		
									既存店 前年比	既存店 前年比	既存店 前年比	既存店 前年比	
07	1月	2.2	0.7	3.3	1.1	▲ 0.9	0.6	0.6	▲ 0.5	0.0	▲ 0.9	1.7	▲ 0.7
	2月	3.0	1.9	3.9	1.6	▲ 0.2	0.7	1.5	0.5	1.5	▲ 0.1	1.3	▲ 1.1
	3月	1.3	▲ 3.0	1.9	▲ 4.4	▲ 0.7	▲ 0.7	▲ 0.2	▲ 1.1	▲ 1.5	▲ 0.8	0.9	▲ 1.4
	4月	4.3	3.4	5.8	5.4	▲ 0.7	0.3	▲ 0.7	▲ 1.8	▲ 1.4	▲ 2.0	1.6	▲ 0.6
	5月	5.9	1.8	7.7	2.2	0.1	0.3	0.3	▲ 0.8	▲ 0.7	▲ 0.9	1.7	▲ 0.6
	6月	4.1	▲ 0.7	5.4	▲ 0.8	▲ 0.4	▲ 0.3	1.9	0.9	5.1	▲ 1.9	▲ 2.0	▲ 4.2
	7月	4.0	▲ 0.9	5.9	▲ 0.6	▲ 2.3	▲ 1.9	▲ 2.5	▲ 3.8	▲ 4.4	▲ 3.4	2.1	▲ 0.2
	8月	3.0	0.9	3.8	0.3	0.5	3.0	1.7	▲ 0.1	1.1	▲ 0.8	2.1	▲ 0.2
	9月	1.1	▲ 1.3	1.2	▲ 1.9	0.5	▲ 0.6	▲ 0.2	▲ 2.0	▲ 2.7	▲ 1.5	2.1	0.0
	10月	4.4	2.0	5.4	2.7	0.8	0.4	▲ 0.1	▲ 1.7	▲ 1.6	▲ 1.8	0.9	▲ 1.2
	11月	4.1	▲ 0.3	4.8	▲ 0.4	1.6	0.1	1.9	0.4	0.8	0.1	1.7	▲ 0.6
	12月	2.2	▲ 0.5	2.8	▲ 0.3	0.2	▲ 0.7	▲ 0.4	▲ 1.5	▲ 2.2	▲ 1.0	0.6	▲ 1.3
08	1月	3.7	0.6	4.5	0.8	1.3	0.8	▲ 0.8	▲ 2.0	▲ 2.1	▲ 2.0	0.1	▲ 1.6
	2月	5.6	▲ 0.2	6.3	▲ 0.4	3.2	▲ 0.9	2.7	1.2	1.0	1.4	3.4	▲ 0.5
	3月	1.5	▲ 2.4	1.7	▲ 4.0	1.0	0.4	1.8	0.2	▲ 1.2	1.3	1.2	▲ 0.6
	4月	4.3	4.5	5.6	7.2	0.1	▲ 0.1	▲ 0.6	▲ 2.2	▲ 3.4	▲ 1.5	1.4	▲ 0.2
	5月	3.8	2.9	4.8	3.6	0.3	▲ 0.1	▲ 0.5	▲ 2.0	▲ 2.5	▲ 1.7	5.1	3.5
	6月	4.0	▲ 1.2	5.0	▲ 1.7	0.3	0.0	▲ 2.6	▲ 4.0	▲ 7.3	▲ 1.7	5.7	4.0
	7月	9.0	3.0	11.0	3.8	2.0	0.1	0.3	▲ 0.7	▲ 2.3	0.5	13.3	11.5
	8月	3.1	▲ 2.3	3.7	▲ 3.1	0.7	0.7	▲ 1.0	▲ 2.2	▲ 2.9	▲ 1.8	6.7	5.1

(出所) 経済産業省「商業販売統計」

○ 実質ベースでは悪化

8月の小売業販売額は前年比+0.7%（7月同+2.0%）と13ヵ月連続でプラスになった。季節調整値でも前月比+0.7%と2ヵ月連続で増加している。7-8月平均（季調値）でも4-6月対比+0.4%と、一見底堅く推移しているようにも見える。

もっとも、これはあくまで名目の話である。物価上昇の影響を考慮した実質ベースでは8月が前年比▲3.1%、7-8月平均で同▲2.6%と大幅に減少しており、4-6月の同▲2.2%と比べてもマイナス幅は拡大している。また、季節調整値でも7-8月平均の4-6月期比は▲0.9%と悪化している。4-6月期の前期比▲1.8%と比べれば多少マシだが、やはり弱めとあって良いだろう。財消費が引き続き低調に推移していることが確認できる。7、8月の消費者物価指数（コア）が前年比+2.4%と4-6月期の同+1.4%から急上昇したことが家計の実質購買力の縮小や消費者マインドの悪化をもたらし、不要不急の品目への支出が抑制されているとみられる。

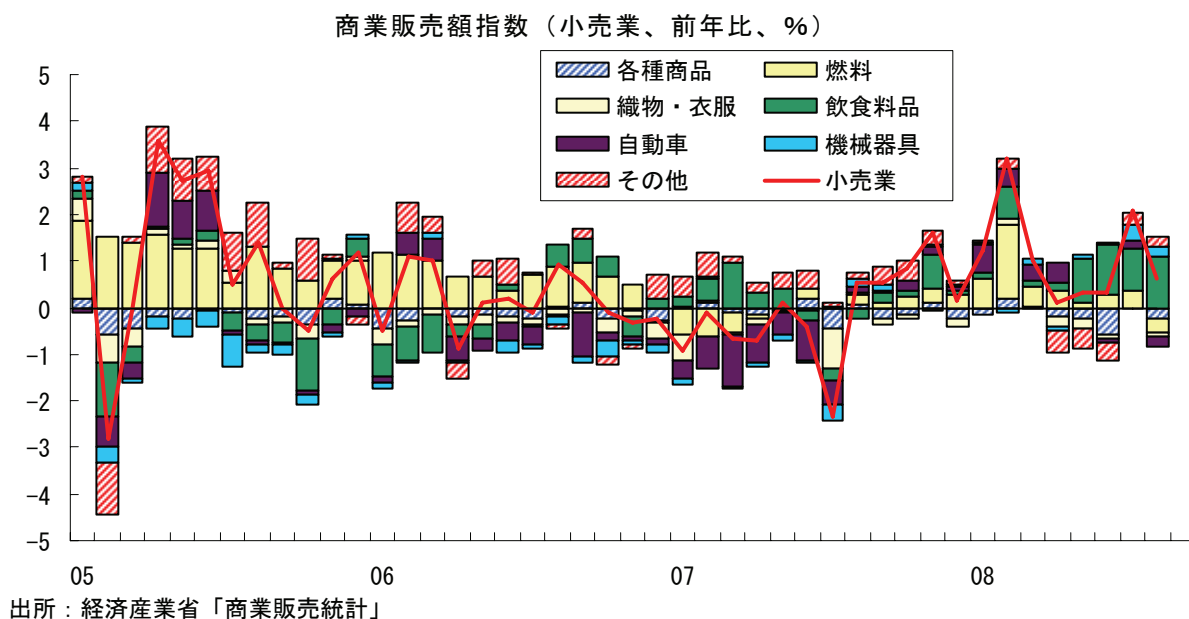
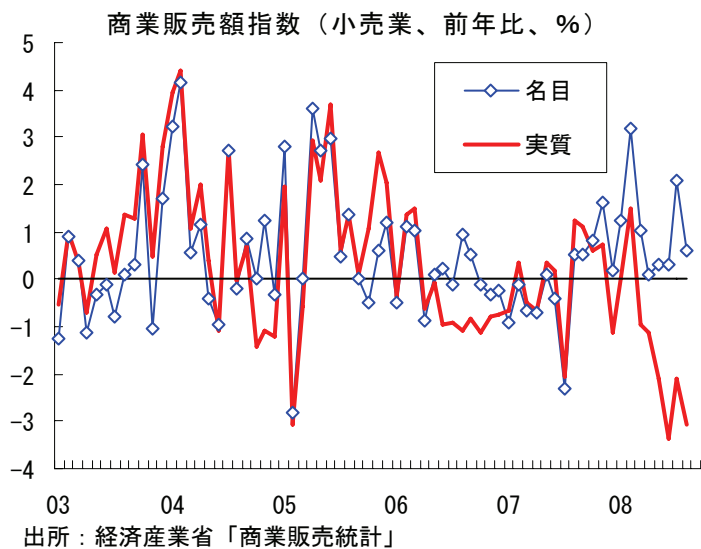
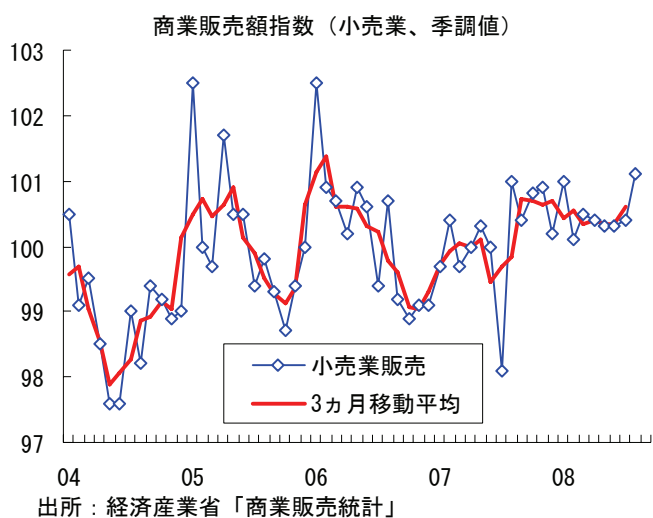
4-6月期のGDPベース個人消費は前期比▲0.5%と大幅に減少していた。4-6月期についてはうるう年要因剥落という一時的要因によって押し下げられた面もあるため、7-9月期が4-6月期ほどの悪化を示す可能性は低いが、いずれにしても低調な結果が続くと予想される（前期比横ばい程度か）。

○ 業種別の推移

小売業販売額（名目）を業種別にみると、プラスになったのは、飲食料品小売業（前年比+3.4%）、機

械器具小売業（同+3.5%）、その他小売業（同+1.1%）である。ただし、飲食料品小売業については、価格上昇によって押し上げられている側面が強いことに加え、このところの節約モードの強まりから外食を手控えて家で食事をする世帯が増えていることが影響していると考えられ、プラスの評価はできないだろう。機械器具小売業については、北京五輪関連需要によって押し上げられたとみられるが、9月以降の反動が気になるところだ。

これまでプラスが続いていた燃料小売業は同▲2.9%と07年5月以来のマイナス。ガソリン価格は前年比でかなりの伸びになっているが、価格高騰による買い控えから販売数量が大幅に落ち込んでいるとみられる。また、各種商品小売業（同▲1.9%）、織物・衣服・身の回り品小売業（同▲1.4%）は引き続き低調な推移となっている。生活必需品価格上昇の影響に伴う生活防衛意識の強まりから、衣料品等、不要不急の品目への支出が抑制される傾向がこのところ顕著である。そのほか、自動車小売業については同▲2.0%、前月比+4.4%と比較的強めだったが、大幅に落ち込んだ業界統計と比較すると上振れている印象を受けるため、来月反動が出る可能性があるだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。